

生目古墳群(宮崎市)

いきめ

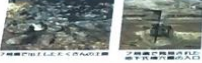
右手から21号墳～22号墳～23号墳～14号墳～9号墳～7号墳～5号墳～3号墳～1号墳と回ってみよう!

の眠る丘、生目古墳群へようこそ

なまなまの墳輪が並んでいた5号墳
 この前方後円墳は市家の築山に造られました。築山は正の段々に造られ、並べられるはずの墳輪もありませんでした。また、古墳の周囲には11基の地下式横穴墓が発見されており、前方後円墳と地下式横穴墓、両方のお墓が併存に隣接した生目古墳群を象徴する古墳でもあります。



なまなまの築山に造られた古墳群最後の前方後円墳です。築山は正の段々に造られ、並べられるはずの墳輪もありませんでした。また、古墳の周囲には11基の地下式横穴墓が発見されており、前方後円墳と地下式横穴墓、両方のお墓が併存に隣接した生目古墳群を象徴する古墳でもあります。

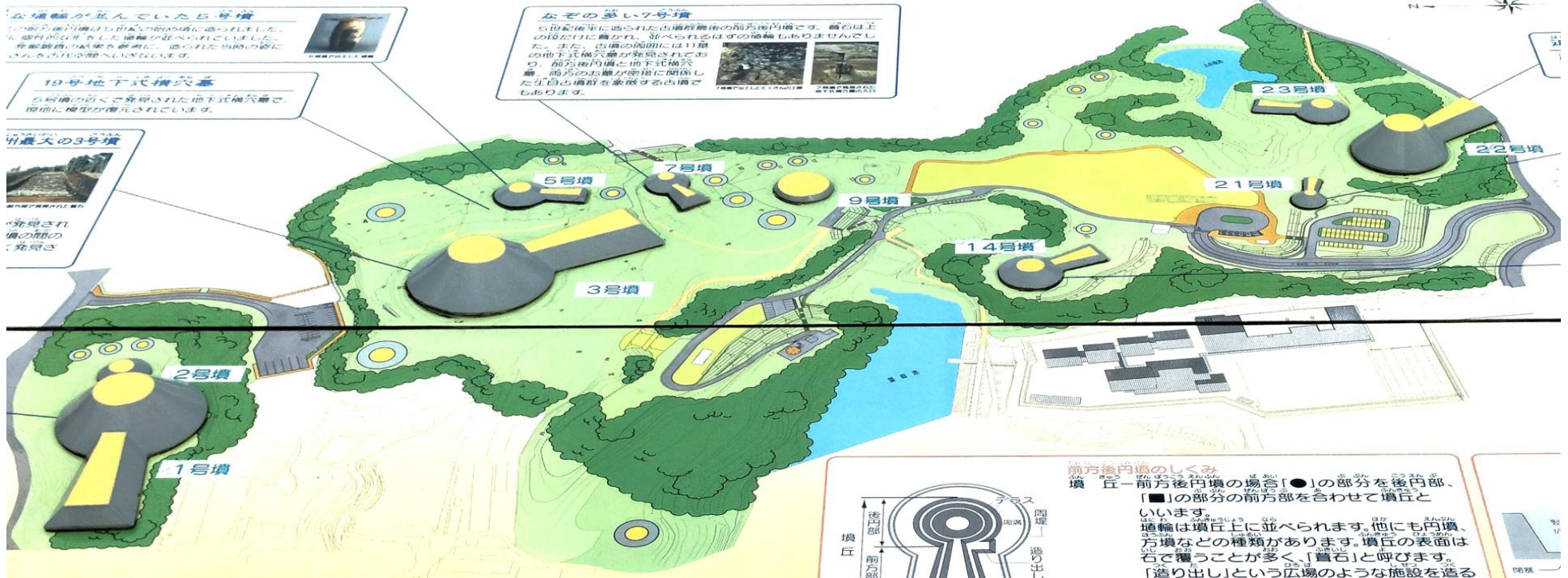


19号地下式横穴墓
 5号墳の近くで発見された地下式横穴墓で、原形に復元されています。

市家最大の3号墳



発見された墳の部分が死屋敷



前方後円墳のしくみ
 墳丘—前方後円墳の場合「●」の部分の後円部、「■」の部分の前方部を合わせて墳丘といえます。
 墳輪は墳丘上に並べられます。他にも内墳、方墳などの種類があります。墳丘の表面は石で覆うことが多く、「貫石」と呼びます。「造り出し」という広場のような施設を造る



生目古墳群は生目古墳群史跡公園として整備されており、正面は宮崎市生目の杜遊古館(埋蔵文化財センター)



これは21号墳/4世紀前半築造の前方後円墳/右手前が前方部、左奥は後円部

[video](#)



地下式横穴墓に囲まれた小さな前方後円墳 21号墳

21号墳は4世紀の前半(今から1650~1700年前)、古墳時代前期の中ごろにつくられました。生目古墳群では最も小さな前方後円墳で、墳丘の長さは復元で36mです。発掘調査により、古墳の周囲を巡る周溝という大きな溝の中から、地下式横穴墓が13基も発見されました。その中には5世紀はじめにつくられた、宮崎平野部では最古の地下式横穴墓もあります(38号、43号)。

Burial Mound 21 (nijyuichigoufun) is smallest keyhole-shaped tumulus in Ikime Kofungun. Its length was 36 meters, and it was built in the first half of the fourth century. Thirteen underground tunnel tombs were surrounding this burial mound; two of the thirteen tombs are the oldest in the Miyazaki Plain.

発掘調査で判明、実は前方後円墳だった

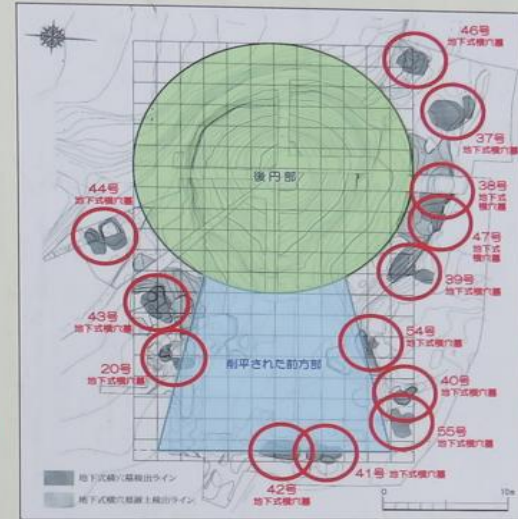


21号墳を真上から写した空撮写真

21号墳は長い間、円墳と考えられてきました。昭和18年の国史跡指定時の書類にも、「円墳」と書かれています。しかし、発掘調査で確認された周溝は前方後円墳の形に巡っていました。21号墳は前方部が壊され、後円部だけが残っていた前方後円墳だったので。



消滅した前方部の角から見た21号墳

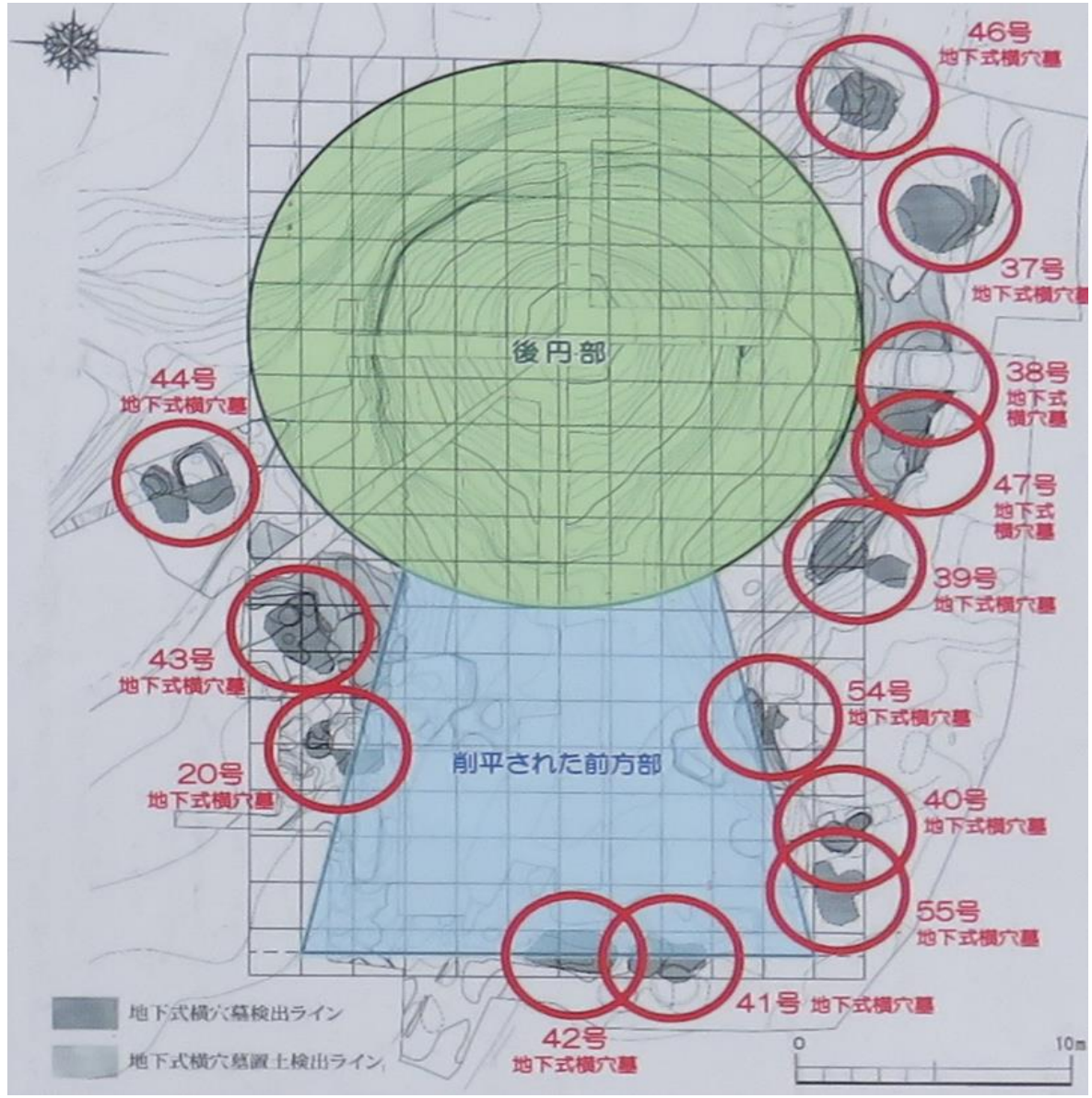


壺形埴輪

21号墳では、底に穴のあいた土器の壺がいくつか出土しています。右の写真は、土器を焼き上げたあとにわざわざ底をこわして穴をあけた壺です。これらは壺形埴輪(底部穿孔壺)と呼ばれるもので、生目古墳群では21号墳のあとにつくられた22号墳や14号墳、5号墳でも出土しています。



宮崎市教育委員会
令和3年3月



前方部の左裾から後円部方向を見たところ

[video](#)



同じく、前方部の右裾から後円部方向を見たところ

[video](#)



右手前が後円部、左奥は前方部

[video](#)



これは21号墳に寄り添う43号地下横穴墓の説明板/九州地方南部にのみ見られる地下式横穴墓と言われる墓制

生目43号地下横穴墓

玄室の天井が崩れ落ちてなくなっているため、まるで四角い穴のように見えますが、写真の向かって右半分が^{たてこう}竪坑、左半分(石が並んでいる方)が遺体を安置する^{げんしつ}玄室です。この模型では、玄室の天井を復元しています。

竪坑は幅2.9m、長さ1.6m、深さは最大で60cm、玄室は幅3.0m、奥行1.0m、天井までの高さは復元で60cmになります。竪坑と^{せんもん}羨門(玄室の入口)、そして玄室の横幅がほとんど同じです。

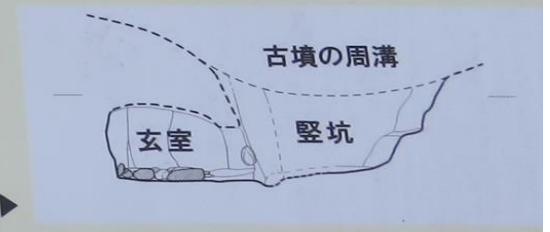
玄室の床には石が6列に並べられており、この上に棺をのせたか、あるいは板を置いて遺体を安置したと考えられます。遺体を玄室におさめたのち、羨門の両側にある溝に板をはめて玄室の入口を閉じ、竪坑を土で埋め戻しました。

^{どき}土器や^{くだたま}管玉、^{うすだま}臼玉などの出土遺物から、5世紀はじめにつくられことが分かりました。宮崎平野で最古の^{ちかしきよこあなぼ}地下式横穴墓です。



▲発掘調査時の写真
(右側が竪坑、
左側が玄室)

断面図(破線は復元)▶



こちらは22号墳/4世紀後半頃築造の前方後円墳/後円部を後ろから見たところ/説明板がある

[video](#)



説明板/中世の時代に砦として使われたようだ



生目 22号墳発掘調査状況

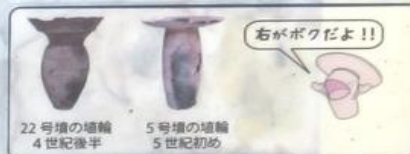
K調査区では、後円部と前方部のつなぎ目であるくびれ部が見つかりました。一部のちの時代に崩れ落ちてしまっていたが、後円部、前方部ともに古墳の表面を覆う葺石が良好な状態で残っていました。

今は草木に覆われているけれど、造られた当時は石の山みたいだったんだ。



倒れていたけどほとんど割れていませんでした。ボクのご先祖さまかな？

22号墳は、頂上と斜面途中の平坦面に壺形土輪が立て並べられていたと考えられます。ほとんどの土輪は細かな破片になっていましたが、ほぼ完全な形で出土したのものもありました。5号墳の土輪よりも壺らしい形をしていることから、5号墳の土輪よりも古く位置付けられます。



薬研堀断面写真

後円部頂上近くから、横から見るとV字形に掘り込まれた堀が見つかりました。22号墳が造られてから1000年余りたった中世、後円部の頂上は砦として利用されていました。この堀は頂上の砦を守るために掘られたもので、V字形の形が、薬の材料をすりつぶす「薬研」に似ていることから「薬研堀」といいます。



薬研堀断面掘削状況模式図

生目古墳群では3号墳でも同様の堀が、発掘調査によって見つっています。

古墳は見晴しがいい場所に造られることが多く、後の時代に「砦」や「AC」として利用されることがあるのじゃ。



墳丘を登ってみよう！

[video](#)



三段築成の後円部の、二段目のテラスを見たところ



反対側を見たところ

 video



後円部の墳頂まで登り、前方部方向を見たところ



木々の隙間から括れ部及び前方部方向が見えた

 video



振り返って後円部墳頂を見たところ

[video](#)



こちらは23号墳/4世紀後半頃築造の前方後円墳



後円部を後ろから見たところ

 video



正面前方は14号墳/4世紀後半頃築造の前方後円墳/前方部を後ろから見たところ

[video](#)



こちらは9号墳/円墳の形状だが、すぐ左手の33号墳を前方部とする前方後円墳らしい

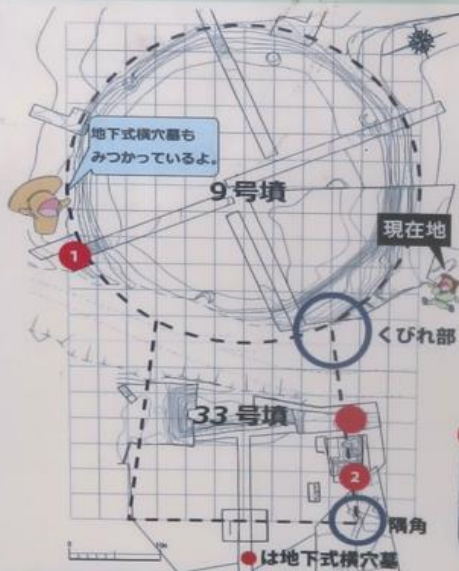
[video](#)



生目9・33号墳

生目古墳群9基目の前方後円墳発見か!?

従来、生目9号墳と33号墳はそれぞれ別の円墳と考えられてきました。ところが発掘調査の結果、9号墳を後円部、33号墳を前方部とする一つの前方後円墳である可能性が非常に高くなりました。もし前方後円墳だとすると生目古墳群の中で9基目の前方後円墳が確認されたことになります。



上の写真は、33号墳の南側の周溝を確認した際のもので、33号墳は墳丘の大部分を失っていますが、周りに巡らされた溝(周溝)はかろうじて残っていました。円墳であるならば曲線となるはずの溝が、直線的に、しかも9号墳に向け伸びている様子がわかります。

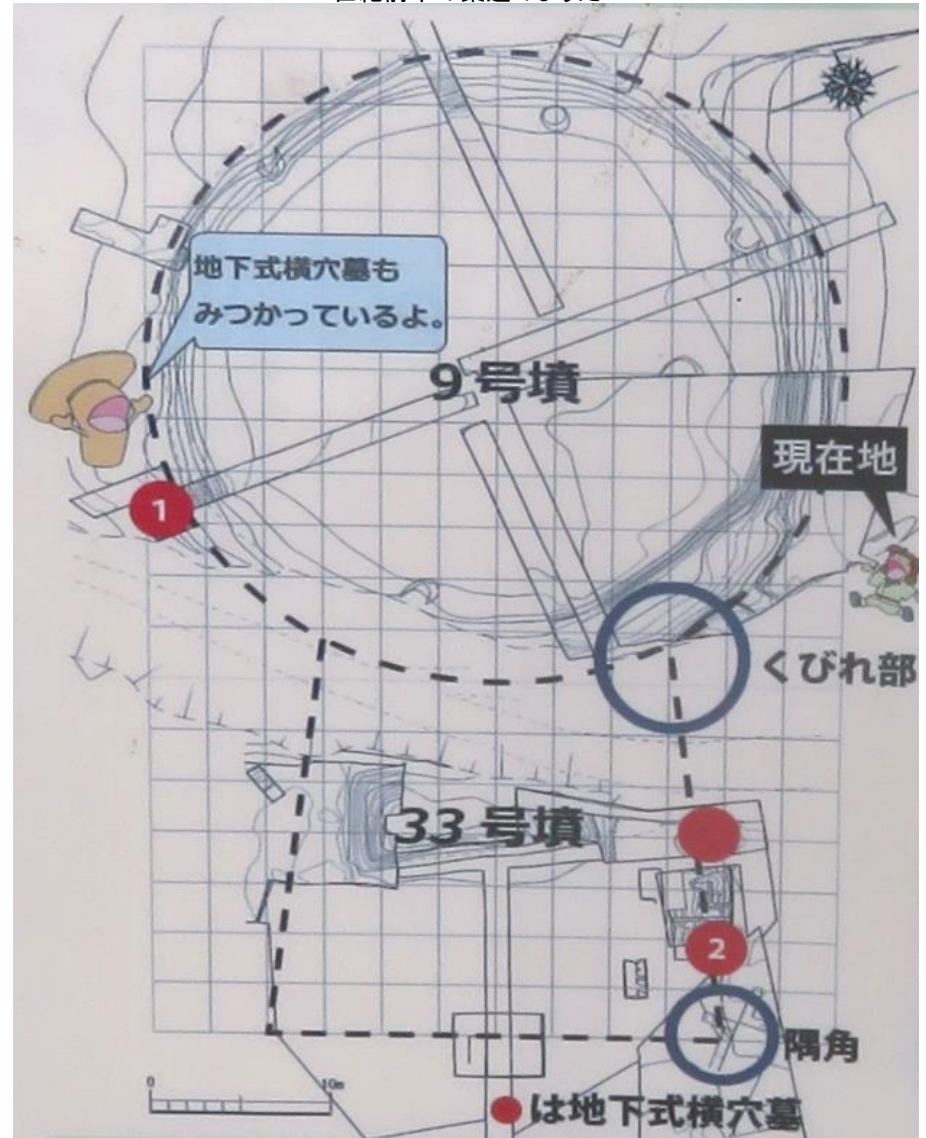
前方後円墳であることを確定するためには後円部と前方部のつなぎ目である「くびれ部」を見つけることが一番確実です。しかし生目9号墳と33号墳の場合は「くびれ部」は完全に削られ失われていました。



そこで、前方部の先端の角、「隅角」を確認し、前方後円墳であることを確かめる調査をおこないました。その結果、周溝は前方部前面には巡らず、「隅角」に向かって浅くなり、そこで溝が無くなっていることがわかりました。これは生目5号墳や14号墳でも確認されている、南九州の前方後円墳で度々見られる特徴の一つです。くびれ部が失われていることから断定はできませんが、9号墳と33号墳は一つの前方後円墳の可能性が非常に高く、その場合の墳長は約60mです。

平成27年5月 宮崎市教育委員会文化財課 生目の杜遊古館 (0985-47-8001)

4世紀前半の築造のようだ



こちらは7号墳/5世紀後半築造の前方後円墳

[video](#)



括れ部を見たところ



左手の後円部を見たところ



右手の前方部を見たところ



前方部の左後ろから後円部方向を見たところ

[video](#)



前方部を後ろから見たところ

[video](#)



前方部の右後ろから後円部方向を見たところ

[video](#)



こちらは5号墳/4世紀末頃築造の前方後円墳/前方部から後円部方向に見たところ

[video](#)



甦った！5号墳

5号墳は、約1600年前の古墳時代中期の初め頃に築かれた長さ57mの豪族の墓で、生目古墳群内では、小さい規模の前方後円墳です。古墳は、前方部・後円部とも2段に造られ、斜面には川原石を重ねて葺き、瓦屋根のような葺石がありました。遺体は後円部の最も高い部分に埋葬されています。また、5号墳には、独特な形をした埴輪が並べられたことも解っており、この地に栄えた当時の豪族の一端がうかがえます。この5号墳は、発掘調査の結果をもとに当時の姿に復元しました。

Burial Mound 5 (gogofun) was made 1600 years ago for either a powerful family or clan during the time burial mound construction was common. The entire mound measures 57 meters in length from the tip of the entrance area to the rear of the burial chamber. The body was placed in the highest area within the burial chamber itself. Both the entrance and main burial chamber sections on the outside were covered in stones on the two sloped rings. In addition, small clay figures have been found in the tomb, which have allowed us to better understand how the people of the time prospered on the surrounding lands. Based on close inspection of these artifacts and on the excavation of Burial Mound 5, it was possible to restore the tomb to its original state as it is seen today.

5号 冨墳은 약1600년전의 고분시대 중기초에 세워진 호족의 무덤인데 길이57m나 되는 고분군내에서는 작은규모의 전방 후원형 무덤입니다. 유체는 후원부의 제일 높은곳에 매장되어 있습니다.고분의 전방부와 후원부는 모두 두층으로 되어있고 사면에는 용석이라고 불리는 돌들이 가지런히 깔려 있습니다. 그리고 5호분에는 독특한 토동이 줄지어있는것도 알수있어 당시 이 지방에 번영한 호족의 일면을 볼수있습니다. 이 5호분은 발굴조사의 결과를 의거로 만들어진 당시의모양에 따라 복원 되었습니다.

5号墳は大约1600年前的古坟时代中期起始构筑而成的豪族之墓，长57m，是古坟群内规模较小的前方后圆坟。遗体被埋葬于后部圆顶最高部位处，该古坟的前方部，及后面圆部均为双层式构造，它的斜面垒砌的石块被称为葺石。且，5号坟中排列着独特形状的陶俑，足可一窥当时此地豪族的繁盛景象。该5号坟依据发掘调查之成果，忠实地再现了建造初始的模样。



発掘調査当時の5号墳

5号墳は墳丘表面のほぼ全体を調査しました。墳丘に並べられた葺石は、墳丘が崩れるのを防止するためと、墳丘表面を彩るために並べられたと考えられます。約90000個の河原石が使われており、人の手によって近くの大淀川から運ばれました。それだけでも、大変な作業だった事でしょう。



奇妙な形の埴輪

5号墳から出土した埴輪も元々は円筒埴輪や壺形埴輪をモデルに作ったと考えられますが、その形は独特なものでした。埴輪は東側の低地にあった集落から見える東側だけに並べられました。埴輪の実物は宮崎市埋蔵文化財センターでご覧になれます。

復元工事大変でした

現在ご覧になっている5号墳は本当の古墳の上に、一旦土を盛り、その上から再度葺石を葺きなおした古墳です。本当の古墳を傷めないように慎重な工事をおこないました。土を盛ったり、葺石を並べる工事は、昔と同じようにすべて手作業でおこなわれました。

宮崎市教育委員会

前方部から後円部を見たところ

[video](#)



少し近づいて見たところ



そこで左手を見たところ



同じく、右手を見たところ



括れ部から前方部を見たところ

[video](#)



これは前方部の右裾から後円部方向を見たところ



そこで、前方部の先端を見たところ/前方のマウンドは3号墳

[video](#)



後円部の後ろから前方部方向を見たところ/手前に説明板と19号地下式横穴墓が見える



周溝の様子を見たところ

[video](#)



5号墳に寄り添う19号地下式横穴墓

19号地下式横穴墓

人が立っている長方形の穴が墓の入り口(竪坑)。左側が遺体をおいた部屋(玄室)です。



19号地下式出土壺

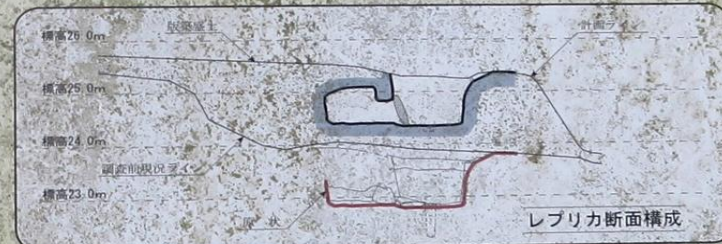
まつりに使用した土師器の壺。



この19号地下式横穴墓は5世紀前半に造られた5号墳の周溝の外側のこの位置から発見されましたが、5号墳が造られた後、間もなくしてこのお墓が造られていたことから、5号墳の埋葬者に近い関係の人が埋葬されたと考えられます。

玄室からは遺体に添えられた鉄のヤジリが2本出土しています。また、このお墓の周囲からは、埋葬後にまつり(お葬式)をした際の土師器の高坏や壺が残されていました。

19号地下式横穴墓のように生目古墳群では、前方後円墳や円墳の周囲でたくさんの地下式横穴墓が発見されています。



(※19号地下式横穴墓は、原状のものを保護し、同じ位置・規模でレプリカを造っています。)

宮崎市教育委員会

これが19号地下式横穴墓

[video](#)





こちらは3号墳/生目古墳群で最大の前方後円墳/左手が後円部、右手は前方部/手前は幅広い周溝/4世紀中頃の築造

[video](#)



左手の後円部



右手の前方部



後円部から前方部方向を見たところ/幅広い周溝が巡っている

[video](#)



これは後円部を後ろから見たところ

 video



さて、正面は1号墳/4世紀後半頃築造の前方後円墳(以前は4世紀初め頃とされていたようだ)/木々に覆われていて墳形が見えないが、左手が前方部、右手は後円部

[video](#)



反対側に回って見たところ/左手が後円部、右手は前方部/正面中央が括れ部辺りか・・・



括れ部辺りと思われる部分をアップで見たところ



これは宮崎市生目の杜遊古館(埋蔵文化財センター)に展示されていた5号墳から出土した独特の形をした壺型埴輪



これは出土品です

子どもさん向け
かいせつポイント

生目古墳群に出土していた
『つぼのかくちまはにわ』

- ◆古墳群の発掘には古墳（今から1500年以上前の人々の
大きなお墓）がたくさんある生目古墳群があるんだ。
- ◆その古墳群の上には、この『つぼのかくちまはにわ』が
なべられていて、ほく（ハニー）のモデルにもなったんだ。
- ◆古墳群には驚くことのできるもの、行って見てね！



ハニー

5号墳出土埴輪

独特の形状

この埴輪には、最がしん（埴輪に類する
れれ穴）や家（埴輪に似た形のもの）
る物（埴輪）などの特徴的なものが
見られます。同じ様な埴輪は、
古墳群では出土していません。生目古墳
群の個性を象徴するものです。

生目古墳群史跡公園MAPにあった編年表/これからすると、宮崎平野では生目古墳群は4世紀代における最大の古墳群であることが見てとれる

